

カリフラワー (露地) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に転換する型であるが、窒素をはじめとした養分吸収パターンは山型を示し、収穫後の土壤の残存養分は比較的強く制御できる。リン酸に対しては、初期と花蕾の発育期に特に必要となる。また、各種養分供給という面から10a当り2t程度の堆肥の施用は不可欠といえる。

〔病害虫・雑草防除〕

土壤病害対策として、低湿地での栽培はさけ、輪作するなどの耕種的防除を前提とし、多発圃場では栽培しない。根こぶ病を対象とした土壤施用剤は、作条混和を行い、圃場への農薬投下量を削減する。苗床での防除を徹底し、本圃に病害虫を持ち込まない。ローテーション散布を行い、薬剤抵抗性害虫の発生を防ぐ。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	土壤診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。 緑肥作物を利用する。	堆肥 2～3t/10a
化学肥料 低減技術	基肥は局所施肥(条施肥など)するとともに、窒素、カリについては追肥型の施肥法をとることを基本とする。 肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準以下 有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20～50%
化学農薬 低減技術	機械により中耕、除草する。 B T剤をローテーション散布に位置づける。 (対象：コナガ、アオムシ、ヨトウムシ類など) 微生物農薬を利用する。 (対象：軟腐病) 育苗期に防虫ネットによる被覆を行う。 (対象：コナガ、アブラムシ類など) 性フェロモン剤により交尾阻害を図る。 (対象：コナガ、ハスモンヨトウ) 性フェロモン剤による発生予察・誘殺を行う。 (対象：コナガ、ハスモンヨトウなど)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	多肥作物であるため、初期および花芽形成期前後の生育を促進させるため、これらの時期に養分吸収が確保できるように配慮する。 水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意したきめ細かな施肥法をとる必要がある。 盛土などが行われている圃場では、その客入土壤の改良を行う。 卵や若齢期の集団を見つけ捕殺する。 (対象：ヨトウムシ類など)	